

大学コンソーシアムひょうご神戸  
2022年度 第5回 教育連携委員会  
議事次第

メール回付：2023年1月31日（火）

回答期日：2023年2月13日（月）

委員校：神戸大学（委員長校）、大手前大学（副委員長校）、大手前短期大学、  
関西国際大学、関西福祉大学、関西学院大学、聖和短期大学、甲南大学、  
神戸医療未来大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸芸術工科大学、  
神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸親和女子大学、神戸常盤大学、  
神戸常盤大学短期大学部、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、  
姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫医科大学、兵庫県立大学  
(計 24 校)

1. 審議事項

(1) 2023年度 事業計画・予算について（資料1）

各事業委員会活動の自己評価に対する改善提案（参考資料）

2. 報告事項

(1) なし

以上

2023年1月吉日

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸  
事業委員会 委員長 各位

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸  
理事長 中井 伊都子

2023年度事業計画・予算（案）及び2022年度事業報告・決算（案）  
の作成について（依頼）

拝啓 寒冷の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当コンソーシアムの活動に深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、標記の件につきまして、下記のとおりご提出いただきますよう、よろしく願いいたします。

なお、2023年度事業計画の作成にあたっては、2022年度の各事業委員会の自己評価をもとに企画運営委員会及び理事会にて作成した改善提案の内容を踏まえてご検討いただきますようお願いいたします。また、委員長校・副委員長校が交代する委員会におかれましては、新旧の委員長校・副委員長校にて適宜連携のうえ作成していただき、2023年度の委員長校からご提出いただきますようお願いいたします。ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。

敬具

記

1. 2023年度事業計画・予算（案）及び2022年度事業報告・決算（案）の作成・提出

(1) 2023年度事業計画・予算（案）

提出期限：2023年2月15日（水）正午

※第6回理事会(1/19)において来年度の各委員会事業に対する予算が承認されました。

委員会事業予算（総額）：400万円

(2) 2022年度事業報告・決算（案）

提出期限：2023年3月31日（金）正午

2. 今後のスケジュール

(1) 「2023年度事業計画・予算（案）」

2023年 3月30日 第7回理事会にて審議・決定

2023年 5月（予定）定時総会にて報告

(2) 「2022年度事業報告・決算（案）」

2023年 4月（予定）2023年度第1回理事会にて審議、定時総会に上程

2023年 5月（予定）定時総会にて審議・決定

(添付書類)

- ・添付1) 2022年度 各事業委員会活動の自己評価に対する改善提案
- ・添付2) 2023年度 【記入用】事業計画・予算（案）
- ・添付3) 2022年度 【記入用】事業報告・決算（案）

以上

## 【2023年度 教育連携委員会 事業計画】

提出日:2023年 月 日

委員長校 :

副委員長校:

委員校:

(委員校は、加盟校からの2023年度申請を踏まえ、事務局にて更新致します)

## &lt;目的&gt;

加盟校の教育・研究の質を高める「多元的学び」を提供する取り組みとして、加盟校の教育事業についての相互連携、教育資源及びテクノロジー活用に関する相乗効果を図る。

「大学間連携による多様な教育ニーズ」に対応する教育活動を通じて、多様な学生の交流を促進し、学修動機と学修経験の強化、教育効果の向上を目指す。

さらに、学生の所属校の垣根を越えた学びに対して単位認定の道を開くことで、学生が幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性の涵養を図るとともに、コンソーシアム事業への参画の動機づけや、地域貢献活動の実現も期待する。

## &lt;内容&gt;

## 1. 単位互換事業の実施

加盟校において幅広い科目の履修や学びの機会を提供するため、兵庫県の地域特性や加盟校の特徴を生かした授業及び集中講義を中心とした単位互換事業を実施する。その際に「多様なメディアを高度に利用した」科目等も取り入れる。

## 2. 多様な学修機会の提供

加盟校に通う学生等に多様な学修機会を提供するため、加盟校が実施する講座等を開放し、学びの機会を継続的に提供する。

## &lt;期待される効果&gt;

## 1. 単位互換事業の実施

- (1) 「多様なメディアを高度に利用した」授業科目を本格的に取り入れることで、大学間の地理的・時間的課題を解消し、より多くの学生に大学の枠を超えた学びの場の提供をすることによる教育効果の向上。
- (2) コンソーシアム事業(国際交流、地域連携、社会連携等)に対する学生への意識づけの促進。

## 2. 多様な学修機会の提供

- (1) 加盟校の教育資源を活用する「多元的学びの機会」を継続的に提供することによる、加盟校の教育事業についての相互連携、教育・研究の質の向上。
- (2) 異なる分野の学生等の交流促進による広い視野を持った人材の育成。

課題⑦ 大学間連携による多様な教育ニーズへの対応		予算額
取組1	単位互換事業	520,000円
取組2	多様な学修機会の提供事業	80,000円

【2022年度 教育連携委員会 事業計画】

委員長校 : 神戸大学

副委員長校: 大手前大学

委員校: 大手前短期大学、関西国際大学、関西福祉大学、関西学院大学、聖和短期大学、甲南大学、神戸医療未来大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸芸術工科大学、神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸親和女子大学、神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫医科大学、兵庫県立大学

計24校

<目的>

加盟校の教育・研究の質を高める「多元的学び」を提供する取り組みとして、加盟校の教育事業についての相互連携、教育資源及びテクノロジー活用に関する相乗効果を図る。

「大学間連携による多様な教育ニーズ」に対応する教育活動を通じて、多様な学生の交流を促進し、学修動機と学修経験の強化、教育効果の向上を目指す。

さらに、学生の所属校の垣根を越えた学びに対して単位認定の道を開くことで、学生が幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性の涵養を図るとともに、コンソーシアム事業への参画の動機づけや、地域貢献活動の実現も期待する。

<内容>

1. 単位互換事業の実施

加盟校において幅広い科目の履修や学びの機会を提供するため、兵庫県の地域特性や加盟校の特徴を生かした授業及び集中講義を中心とした単位互換事業を実施する。「多様なメディアを高度に利用した」科目等も取り入れる。

2. 多様な学修機会の提供

加盟校に通う学生等に多様な学修機会を提供するため、加盟校が実施する講座等を開放し、学びの機会を継続的に提供する。

<期待される効果>

1. 単位互換事業の実施

- (1) 「多様なメディアを高度に利用した」授業科目を本格的に取り入れることで、大学間の地理的・時間的課題を解消し、より多くの学生に大学の枠を超えた学びの場の提供をすることによる教育効果の向上。
- (2) コンソーシアム事業(国際交流、地域連携、社会連携等)に対する学生への意識づけの促進。

2. 多様な学修機会の提供

- (1) 加盟校の教育資源を活用する「多元的学びの機会」を継続的に提供することによる、加盟校の教育事業についての相互連携、教育・研究の質の向上。
- (2) 異なる分野の学生等の交流促進による広い視野を持った人材の育成。

課題⑦ 大学間連携による多様な教育ニーズへの対応		予算額
取組1	単位互換事業	590,000円
取組2	多様な学修機会の提供事業	10,000円

**【2023年度 教育連携委員会 事業予算】(案)**

(単位:円)

	予算	各プログラム 予算				委員会 予算		
		取組1		取組2				
		単位互換事業		多様な学修機会の提供事業		内訳	予算額	
		内訳	予算額	内訳	予算額			
収入	会費収入	700,000		520,000		80,000	100,000	
	助成事業収入	0						
	受託事業収入	0						
	プログラム収入	0						
	雑収入	0						
	戻入金	0						
	計	700,000		520,000		80,000	100,000	
支出	会議費	10,000					検討委員会開催費	10,000
	旅費交通費	10,000					旅費交通費	10,000
	通信運搬費	33,000					郵送料	33,000
	消耗品費	0						
	新聞図書費	0						
	印刷製本費	140,000	ポスター・チラシ制作費	140,000				
	光熱水料費	0						
	賃借料	0						
	保険料	0						
	謝金	130,000	ポスター・チラシデザイン謝金	80,000	講師等謝金	50,000		
	租税公課	0						
	支払手数料	4,000					振込手数料	4,000
	諸会費	30,000			Eラーニング協議会会費	30,000		
	委託費	333,000	単位互換HP更新費	300,000			各プログラムHPIに係る予備費	33,000
	人件費	0						
	接待交際費	0						
	支払支援金	0						
雑費	10,000					委員長校・副委員長校連絡調整等	10,000	
計	700,000		520,000		80,000		100,000	

収入－支出	0
-------	---

2022年度 教育連携委員会 事業予算

(単位:円)

	予算	各プログラム 予算				委員会 予算	
		取組1		取組2			
		単位互換事業		多様な学修機会の提供事業		内訳	予算額
		内訳	予算額	内訳	予算額		
収入	会費収入	700,000		590,000		10,000	100,000
	助成事業収入	0					
	受託事業収入	0					
	プログラム収入	0					
	雑収入	0					
	戻入金	0					
	計	700,000		590,000		10,000	100,000
支出	会議費	10,000	検討委員会開催費	5,000	検討委員会開催費	5,000	
	旅費交通費	10,000	検討委員会調査費	5,000	検討委員会調査費	5,000	
	通信運搬費	0					
	消耗品費	0					
	新聞図書費	0					
	印刷製本費	160,000	ポスター・チラシ制作費	160,000			
	光熱水料費	0					
	賃借料	0					
	保険料	0					
	謝金	80,000	ポスター・チラシ謝金	80,000			
	租税公課	0					
	支払手数料	2,000	振込手数料	2,000			
	諸会費	0					
	委託費	428,000	単位互換HP更新費	338,000			各プログラムHPIに係る予備費 90,000
	人件費	0					
	接待交際費	0					
	支払支援金	0					
雑費	10,000					委員長校・副委員長校連絡調整等 10,000	
計	700,000		590,000		10,000	100,000	

収入－支出	0
-------	---

■2022年度 各事業委員会活動の自己評価に対する改善提案

<自己評価基準>

対照目標 4: 当初計画を上回って達成できた 3: 当初計画を達成できた 2: 当初計画をやや下回った 1: 当初計画を下回った --: 判定不能  
 対照状況 4: 本プログラムは継続するべきである 3: 本プログラムは継続しても良い 2: 本プログラムの継続は改善が必要だ 1: 本プログラムは中止するべきだ

委員会	中長期計画中期		プログラム名称	活動概要	自己評価 判定/継続	改善提案	活動数値の進捗状況(2022年11月末現在)		(参考) 中長期計画		
	柱	課題					2022年度活動目標	2022年度活動実績	達成目標	2022年度時点実績	
国際 交流 委員会	柱2	"ひまわり神戶"の国際性を活かした グローバル教育支援	④外国人留学生との 交流促進	兵庫国際交流協会における 国際交流拠点推進事業の実施	JASSO委託事業 2019年9月～25年まで受託 大学連携での国際交流拠点活動 実施	4/4	・コロナ禍の影響を注視しながら、イベント制・オンラインの特性と対面の特性を捉え、効果的により多くの参加者に利 便的な学生発着型プログラムを進行している。さらに、外国人留学生・日本人学生の学生交流を促して、企業・課 業・フアンタラジック等も協賛して行い、関係性を充実させることで、地域の方々、留学生、加担校内外の学生が交流する 機会を創出している。以上のことから今後の更なる活動に期待する。	各年参加者数500名以上	1,174名 (11月末時点)	94%以上の国際理解	
				学生海外派遣プログラム	学生の海外派遣による 医療・衛生国際理解 医療研修コース(米国・オース トラリア) 看護コース(米国・オース トラリア)	1/4	昨春以降、新型コロナの影響で中止となったが、これまで参加学生の満足度は高く、来年度以降も継続して開催するこ とを期待する。	プログラム数10件以上	新型コロナによる事前制約の為 プログラムの中止	本プログラムへの参加を通じて国際 理解が深まったことを実感する学生の 割合: 参加学生の80%以上 (期間中2回測定)	
				模擬国連演習 NMUN (National Model United Nations )	「模擬国連世界大会 (NMUN)」	3/4	「模擬国連世界大会 (NMUN)」は、海外から集まった学生との交流を図る貴重な機会であるので、今後も更なる活動 に期待する。	17名 (神戸市外国語大学) 2名 (神戸市立大学) 1名 (兵庫県立大学)	100%の国際理解		
学生 交流 委員会	柱1	地域の活性化に資する 人材育成のための連携	③大学の枠を超えた 学生間の交流・活動促進	WILL BEアピット テーマ別の学生交流プロジェクト	・地元企業と連携した地域活動 地域学生と交流拠点等での ボランティア活動 ・イカ釣り船 ｽｰﾊﾟｰ ｽﾏｰﾝｽﾍﾞｽﾄ	3/4	地元企業と連携による本プロジェクトは、学生への関与が、所属大学の学内活動だけでなく様々な情報が、学生 自身の成長に繋がるというメリットがあるため、今後も更なる活動に期待する。また、「地域学生と交流拠点」P72生 の参加者としてのボランティア活動については、加担校が運営する施設・人材を活用して、大学間で連携・協力できており、 個人の学生交流プログラムや地域活動のニーズにも応える仕組みとして継続して加担校全体で学生を育てることもも つていくことが、今後更なる活動に期待する。	参加加担校数10校以上/年	34校 (11月末時点)	各年参加者数50名以上	151名 (11月末時点)
				学生発着型プログラミング 加担校・学生の地域活性化に 関する取組(企画)	HP、SNS、メディア等に加担校の 学生の地域活動を公開	3/3	コロナHP上で「地域で働く学生」として活動の様子を掲載し、WILL BEアピットの活動や広報をフェイスブ ックやSNSを通じて発信しており、イベントと連携した活動周知が行われており、次年度も引き続き、本プログラムに際り 組んでいる。	各加担校からの情報提供/年1回 以上 情報公開数40取組以上/年	40取組/年 (予定)	情報公開数200取組以上	200取組以上/5年間 (予定)
教育 連携 委員会	柱3	県内大学の教育・研究の 質を高める多元的学びの提供	⑦大学間連携による多様な 教育ニーズへの対応	単位互換事業	単位互換事業の実施	4/4	・授業形態の多様化に伴い、昨年度修得者29名から本年度42名(対前年31名、非対前年11【オンデマンド10、オン デマンドオンライン併用1】)となり、大幅に履修者を増やす結果となった。 ・教育のIC化に伴い単位互換事業も新たな段階に入ると、今後の学生へ多様な学びの機会の提供に期待して行 くこと期待する。	選出校数 5校/年	履修者: 8大学42名 (対前年31名、非対前年11名)	各年開校科目数: 10科目以上	単位互換開校科目数: 85科目
				多様な学び機会の提供事業	「大学e-learning協議会」連携協 賛システム)の提供、公開講座の 開設	3/3	加担校の教育資源の共有と相互連携の取組として、加担校の公開講座を広く開放し、多様な学生の交流を促進し、 学習機会の拡大を図る活動に取り組んでいる。また、オンラインクラスについても、加担校全体に開校を行い、加担校全体のICTを活用した教育資源の向上の相乗 効果を行う予定としている。	参加者数50名以上/年	実施プログラム数17件 参加者数160名 (11月末時点)	各年プログラム数5件以上	実施プログラム数17件 参加者数160名 (11月末時点)
キャリア 委員会	柱1	地域の活性化に資する 人材育成のための連携	①地域の活性化のための 県内企業への就職率の向上 (加担校学生と県内企業との マッチングに向けた連携)	大学キャリアセンターと連携した 県内大学生の地元就職促進 プロジェクト	兵庫県総務部教育課受託事業 県内企業合同説明会 県内企業紹介動画 合同模擬グループディスカッション等	3/4	・意見交換会では大学側と企業側が相互理解を深める機会を提供することで、現在の地域ニーズを共有し、現 状を踏まえた就職活動支援を学生に行うことで、学生の県内企業理解向上に繋いでいる。 ・県内企業経営者、若手社員の交流により、学生と県内企業間の理解が深まる機会を得ている。対峙者 (教職員・学生)のニーズ等を検証のうえ、来年度の事業の委託に向けて準備を進めていきたい。	各年参加者数500名以上 (学生: 450名以上 教職員: 50名以上)	参加学生: 60名、教職員: 53名 (11月末時点) 今後開催イベントへの参加見込み 学生: 約400名、教職員: 50名	本プログラムへの参加を通じて 兵庫県内企業理解が深まったことを 実感する学生の割合 : 参加学生の70%以上	事後アンケート結果「県内企業への 理解が深まった」79%
				県内企業・団体等の魅力を 情報発信	兵庫県内企業情報とコンソシアで 掲載「地元で働く!」兵庫事業 情報サイト	3/4	掲載企業数が、毎年活動指標を上回っている。また、今年度は追加情報として、留学生の採用情報、求められる日本 語能力などを掲載し、更なる情報の充実を予定している。引き続き加担校、県内企業と連携して、協力企業の開校及 び学生と有益な情報共有の発着型取組の構築について、引き続き取り組んでいきたい。	情報公開企業および留学生 採用情報の追加: 15社	現在委員会キャリアセンターからの 推薦企業15社	情報公開企業・団体数120社以上	2022年3月時点で、兵庫県内協力 企業138社掲載中 本年度中に15社追加予定
				留学生向け就職支援 キャリア教育プログラム (「ひまわり」留学学生インターンシップ)	留学生に特化した インターンシップの機会提供	4/4	当該事業は兵庫県からの受託事業の一環として実施。また今年度で終了となる。「ひまわり」留学学生インターンシップ は日本での就職を希望する留学生にとって、また留学生を採用したい地元企業にとっても過去4年間にわたり、成果をだ して日本プログラムであるため、外部資金確保に向けて尽力していった。実施は、HP等での情報発信、共有等を中心 に実施する。当該プログラムを他府県情報にも提供し、実施していただきたい。	各年参加者数500名以上	実習生: 8大学43名 受入企業・団体数: 22企業・団体	本プログラムへの参加を通じて 日本企業文化理解が深まったことを 実感する学生の割合 : 参加学生の100%	本プログラムへの参加を通じて 国際 理解が深まったことを実感する 学生の割合: 参加学生の91%
柱2	"ひまわり神戶"の国際性を活かした グローバル教育支援	④外国人留学生の 受け入れ体制の強化・定着促進	留学生向け就職支援 キャリア教育プログラム (県内企業海外事業展開に係る 留学生活用事業)	兵庫県企業労働部国際課国際課 受託事業 留学生向け合同企業説明会 日本企業理解促進プログラム の実施、留学生受入企業と大学との 情報交換の実施	4/3	当該事業は兵庫県からの受託事業の一環として実施。また今年度で終了となるため、外部資金確保に向けて尽力 していただきたい。実施は、「外国人留学生のための合同企業説明会」など、実施事業を改めて取り組んでいきたい。	各年参加者数500名以上	2022年度実績としては 参加留学生数: 1,315名 (11月末時点)	本プログラムへの参加を通じて 日本企業文化理解が深まったことを 実感する学生の割合 : 参加学生の70%以上	本プログラムへの参加を通じて国際 理解が深まったことを実感する 学生の割合: 参加学生の91%	

■2022年度 各事業委員会活動の自己評価に対する改善提案

<自己評価基準>

対照達成率 4:当初計画を上回って達成できた 3:当初計画を達成できた 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った --:判定不能

対照継続性 4:本プログラムは継続するべきである 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要だ 1:本プログラムは中止するべきだ

委員会	中長期計画中期		プログラム名称	活動概要	自己評価 到達/継続	改善提案	活動数値と進捗状況(2022年11月末現在)		(参考)中長期計画	
	柱	課題					2022年度活動目標	2022年度活動実績	達成目標	2022年度時点実績
高大連携委員会	柱1	地域の活性化に資する人材育成のための連携	②県内大学と高等学校間の連携による内容豊富な高大連携	大学と高等学校の意見交換会の実施「ひまわり高校大学コンソーシアム」	4/4	県下大学と高校の高大連携に関する課題を共有し、具体的な課題について意見交換を行うことで、高大一貫した教育の提供、人材育成の取り組みを推進していった。	意見交換会の実施/年1回以上	実施予定: 2022年12月12日(月) 13:30~16:30	各年参加校数20校以上	参加校19校、高校19校、計38校 50名の参加申込
			加配校の魅力を提供発信	県内大学の情報提供 合同進学説明会の開催	3/3	加配校と大学の意見交換の場である「ひまわり高校大学コンソーシアム」内で各教職員間の議論や意見をもとめて、コンソーシアムホームページ上で加配校の情報発信等に取り組むことについて、次年度以降も継続していきたい。合同進学説明会は、加配校の二次定員のうち、継続の有無も含めて内容を検討していきたい。高校と大学の学びの連携、教育の連携の観点から、高校・高校生等に加配校の特長を広く情報提供することは、重要な課題であるため、実施していきたい。	大学コンソーシアムひまわり神戸ホームページへの情報掲載「アンケート」等の実施/年1回以上	2023年1月~3月に、加配校から情報を収集し、年度内に提出予定	各年情報提供先数 高等学校等200所以上	2023年1月~3月に、加配校から情報を収集し、年度内に提出予定
FDSD委員会	柱3	県内大学の教育・研究の質を高める多元的学びの提供	④大学教職員の研修機会の提供と交流の促進	加配校が実施するFD-SDセミナーの公開	4/4	約半年間で活動数値である公開セミナー開催数5件以上は達成されている。しかしながら、活動目標「大学間で研修プログラムを共有することで、多様な教職員の学びと交流の場を提供すること」の成果として、当初期待されていた参加加配校の増加や参加の解消は進捗は遅いため、今後も継続的に参加校への呼びかけを行い、広く本プラットフォームを活用していきたい。	参加者数100名以上/年	大学前大学158校 関西学院大学166名 神戸学院大学124名 神戸国際大学87名 兵庫大学151名 (計)686名	各年セミナー5件以上	大学前大学14件 関西学院大学1件 神戸学院大学3件 神戸国際大学1件 兵庫大学1件 (計)5大学7件
			FD-SD情報交換会セミナー等の開催	加配校教職員を対象とした大学教育者に関する講演会等の開催(FD-SDトップセミナー) 「内部質保証システム」構築に向けた取り組みの推進	4/4	①FD-SDトップセミナーについては、今後の教育課題を明確化し、教育改善のための取り組みの視点を持つことができれば、加配校の教職員の資質向上を図るとともに、教職員間のさらなる交流を促進できたことから、来年度も引き続き開催していきたい。 ②内部質保証システム構築に向けた取り組みの推進については、事務局が今年度加配校へ参加可否を確認したところ、7校20名の方参加可能とのことであり、引き続き一定の需要が見込まれることから、次年度以降も継続して実施していきたい。	開催数:3回以上/年	①FD-SDトップセミナー(2022年8月3日開催) ②内部質保証システムに関するセミナー(2022年12月2日開催) ③Excelによる統計分析研修(仮)(2023年2月開催予定)	各年参加者数50名以上	①FD-SDトップセミナー(2022年8月3日開催) 113名参加
企業運営委員会	柱3	県内大学の教育・研究の質を高める多元的学びの提供	⑧県内大学を活用した、社会人の学びや成長の推進	リカレント教育の普及促進に向けた取組	4/4	各加配校において取組の促進が期待されるリカレント教育について、文部科学省、地元企業、賛助会員等と連携を図り、産官学連携で議論できる場を設けること、特約提携にも応募する取組も見える。加配校間でリカレント教育に関する情報の共有と連携を図り、大学におけるリカレント教育の促進、機運の醸成に向けた取り組みを、次年度以降も継続していきたい。	大学・企業関係者による講演・意見交換会(年1回以上)	2022年11月31日開催	各年参加者数50名以上	78名
			加配校のリカレント教育に関する情報発信	県内大学のリカレント講座PR	4/4	加配校による多様な学修機会の提供、社会人の学びや成長の推進にかける取り組みの一つとして、次年度以降も加配校や産業界のニーズをもとに、その発展に寄与すべく、引き続き情報収集をさらに進めたいことと継続していきたい。	大学・企業関係者による講演・意見交換会(年1回以上)		各年参加校10校以上	11校30講座
柱4	県内大学が活性化化する大学連携組織としての運営体制の構築	⑥大学資源を活用する地域プラットフォームの形成	「大学間・地方自治体・企業・地域団体との連携体制の構築」 「参加校の加盟校間の協力・情報提供体制の構築」	3/4	企業運営委員会での懇話会については、定期的に実施し、産官学連携も拡充し、運営体制について意見交換を行っていただきたい。 本年急務として、緊急時連絡・連携体制については、より実効性を高めるための検討を引き続き行っていただきたい。	企業運営委員会等における懇話会の実施(年10回以上)	企業運営委員会等における懇話会の実施(年10回以上)	「企業運営委員会」 9回実施 各取組計12回実施予定 「産官学連携協議会」報告会 各1回実施 各参加校との意見交換会 計2回実施予定	大学間連携の特長を生かした地方自治体・企業・地域団体との連携の促進、緊急時の情報共有・ネットワーク体制の構築	企業運営委員会にて検討し、「緊急時連絡・連携体制」を構築
		⑨県内大学が活性化化する事業運営体制の整備	加配校が活性化する事業運営体制の整備と推進	事業委員会体制の整備	3/4	事業委員会の体制に関しては、選択的・輪番制での運用により、各校の状況を鑑みながら整備と推進を引き続き行っていただきたい。	企業運営委員会等における懇話会の実施(年10回以上)	「企業運営委員会」 9回実施 年度内計12回実施予定	加配校の共通課題に協働して取組む事業運営体制の構築	事業委員会体制の継続の決定 選任方法として選取制・輪番制を決定



委員校名： \_\_\_\_\_

委員名： \_\_\_\_\_

議案の可否（どちらかに○をつけてください。）

**議案**

教育連携委員会2023年度事業計画・予算（案）について

可 ・ 否

「否」の場合、その理由

--